

2012年10月15日(月曜日)の日経ビジネスに 救缶鳥プロジェクトが紹介されました。

特集 世界に誇るニッポンの商品100

Part1 世界を救う商品・サービス

「日本発」が難問を解決する

01

世界に誇るニッポンの商品

川島フーズ

ゲイシャ缶(サバのトマト漬け)

ガーナでは「家庭の味」
保存が利くたんばく源

アフリカ西部に位置するナイジェリアとガーナで「ゲイシャ」を知らない人は少ない。サバのトマト漬けが入った缶詰「ゲイシャ」ブランドだ。

1950年頃。日本の缶詰は安く品質がよい製品として知られていた。そこで、野崎産業(後に合併して川島フーズ)の社員がナイジェリアに持っていき、売り歩いたのが始まりだという。西アフリカ諸国は食料自給率が低く、冷温で保存できるゲイシャ缶は貴重なたんばく源として受け入れられ、国民食の地位を築いた。現在ではタイの生産拠点から、毎年ナイジェリア向けに300コンテナ、ガーナ向けに100コンテナを輸出している。

2010年8月にガーナで開かれたゲイシャ缶誕生100周年を祝う祝典には同国の教育省副大臣が出席。ゲイシャブランドが「永続的に(ガーナの)家庭の味として引き継がれていく」とコメントした。

今後はコストを抑えるため現地生産を計画しているという。ゲイシャ缶が西アフリカに根づいて50年超。川島フーズは同地域の食料問題に携わり続ける。

海外進出年: 1950年代(ナイジェリアでの販売開始)
価格: 1.3セア(約54円)、ガーナ、115円缶
販売国: 地域: ナイジェリア、ガーナなど

NIKKEI BUSINESS ■ 2012.10.15

写真: 竹井 俊博

いつの時代も世界は難問であふれている。人の命を奪う疾病や紛争、犯罪、そして今後、地球規模で大きな問題になると見られる食糧問題——。こうした難問を解決する糸口は、何も国家レベルの巨大なプロジェクトだけにあるのではない。時にはたった1

つの商品・サービスが世界規模の難問解決に役立つこともある。

日本がこれまで培ってきた技術力や高い生産性、細部まで配慮が行き届いた製品開発、そして商売に対する真摯な姿勢は、様々な課題の解決に生かすことができる力を秘めている。

02

世界に誇るニッポンの商品

パン・アキモト

救缶鳥プロジェクト(パンの缶詰)
宇宙に行ったパン
世界を駆け巡る

缶詰のフタを開けると、中からふんわりしたパンが顔をのぞかせる。3年間持つパン・アキモトの「パンの缶詰」は、自治体や学校、企業などの防災用に採用が広がる。米航空宇宙局(NASA)の機体基準をクリアし、スペースシャトルにも乗った。

ある日、秋元産産社長の元に、自治体担当者から「賞味期限切れ缶詰を処分してほしい」という電話が来た。「自分はゴミを作っているのか」と自問する中、2004年にスマトラ沖地震が発生。スリランカの知人から「売れ残ったパンでもいいから送ってくれ」との要請が来た。

缶詰を賞味期限切れ前に回収し、「必要とされる場所」に送る。顧客には回収1缶ごとに100円を値引きする。ハイチ大地震、ケニア北部の飢饉地域など海外への支援が中心だったが、東日本大震災では約2万缶が集まり被災地へ飛び立った。今夏には米コソソヘルズに現地法人を設立。救缶鳥は世界に羽をたく。

海外進出年: 2009年
価格: 1万2000円(15年セト)
販売国: 地域: 日本

2012.10.15 ■ NIKKEI BUSINESS 25

NIKKEI BUSINESS 日経ビジネス 2012.10.15

世界に誇る
ニッポンの商品
100

ASEAN進出ロード マレーシア/シンガポール編
イスラム18億人市場への登竜門
時事解説 米国エネルギー独立宣言
シェール革命第2章の波紋